

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 部分公開
	<input type="checkbox"/> 非公開	

# 令和6年度浜松市社会福祉審議会

## 第1回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和6年5月16日（木）午後2時00分から午後2時45分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第3委員会室
- 3 出席状況
- 委員（9名）
- 中条 操（浜松市老人クラブ連合会 副会長）  
 小木野 安孝（浜松市ボランティア連絡協議会 副会長）  
 中村 公彦（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）  
 坂井 久司（浜松市民生委員児童委員協議会 副会長）  
 水谷 秀夫（浜松市社会福祉施設協議会 副会長）  
 藤島 百合子（一般社団法人 浜松市医師会）  
 小野原 玲子（公益社団法人静岡県看護協会 西部地区支部 副支部長）  
 江口 晶子（聖隷クリストファー大学 教授）  
 露木 里江子（浜松市議会）
- 事務局（12名）
- 高齢者福祉課 亀田健康福祉部次長兼課長 坂本医療・介護推進担当課長  
 大石課長補佐 中野G長 内山G長 大場G長 山根G長  
 宮崎
- 介護保険課 谷口課長 鈴木専門監兼課長補佐  
 健康医療課 西崎健康福祉部次長兼課長  
 健康増進課 小笠原副参事兼課長補佐
- 欠席委員（1名）
- 石川 恵一（浜松市自治会連合会 理事）
- 4 傍聴者 0名
- 5 議事内容 (1) はままつ友愛の高齢者プランの事業実績について
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 宮崎
- 7 記録の方法 発言者の要点記録 録音の有無 有・無

## 8 会議記録

### 1 開会

(事務局)

議事の公開非公開について、個人情報などの非公開情報を審議する予定はないので公開としたいが、よろしいか。

(異議なし)

### 2 委員の紹介

事務局から委員の紹介

### 3 専門分科会会長の選出

水谷秀夫委員を会長として選出

### 4 会長挨拶

### 5 会長職務代理者の指名

江口晶子委員を会長職務代理者として選出

### 6 議事

(1) はままつ友愛の高齢者プランの事業実績について

(水谷会長)

(1)のはままつ友愛の高齢者プランの事業実績について、事務局から説明願いたい。

(亀田次長兼高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(水谷会長)

地域包括支援センター総合相談件数が達成率 100%を超えているが、どのような相談が多いか。

(坂本医療・介護推進担当課長)

高齢者人口の増加に伴い、介護保険に関する相談は多いが、ひとり暮らしの方等複合的な課題を抱える方からの相談も多い。そのような場合、相談を重ねるため、延件数は増える傾向にある。

(水谷会長)

ヤングケアラーに関する相談も受けているか。

(坂本医療・介護推進担当課長)

ワンストップサービスということで、まずは相談を受けて、必要に応じて担当の窓口につなげている。具体的な件数は把握していない。本人から直接というよりも、関係者を通じての相談が多い。

(中条委員)

シニアクラブでは、地域包括支援センターの保健師に講師を依頼して、介護予防の研修会を開催している。地域包括支援センターには、色々と支援していただいている。

(露木委員)

重点施策2のACP市民向け講演会回数について、令和5年度の8回はどのような講演会の回数か。

(坂本医療・介護推進担当課長)

市が医師会に委託して開催した講演会の回数である。地域包括支援センターが独自に開催したものや、市の出前講座として開催したものを含めると回数はもっと多くなる。

(露木委員)

人生会議のようなことは大切だと思う。今後の具体的な計画や目標値は設定しているか。

(坂本医療・介護推進担当課長)

啓発を進める必要性は感じている。市民向け講座を増やしていかなければいけないと考えている。

(露木委員)

私が参加した講演会は医師会が開催したものではなかったが、参加者から大変好評だった。普及啓発を進めていくために様々な方法を考えてほしい。

(坂井委員)

重点施策5の人材確保について、秘策はあるか。

(谷口介護保険課長)

昨年度、ケアワーカーロールモデル事業において、学生が介護施設職員を取材し動画にまとめたものを、皆さんに見てもらおうということを行った。今年度はその動画を生かして、介護業界で働きたいと思う方が増えていくような事業を実施したいと考えている。さらに、来年度に向けて、サービス事業者のニーズを把握したうえで検討を進める。

(坂井委員)

就学補助についてはいかがか。

(谷口介護保険課長)

介護職員の奨学金返済支援事業というものがあり、市内の介護サービス事業所に就職して奨学金を返済する方に対して、返済金の一部助成を行っている。

(江口委員)

施設・事業所の事業継続計画（BCP）の作成割合が目標を達成できなかった要因としてマンパワー不足があるとのことだったが、行政としてサポートする予定はあるか。また、単独の事業所ではなく圏域内で協力しながら計画を作成することも必要だと思うが、取り組んでいることはあるか。

(亀田次長兼高齢者福祉課長)

計画のモデルを提示し、各施設はそれをアレンジして作成できるようにしている。小規模な事業所では、日常業務に加えての計画作成がなかなか難しいということもある。今後も継続して案内やフォローを行っていく。

(西崎次長兼健康医療課長)

訪問看護ステーションは職員の人数が少ない施設が多いことから、災害時の連携BCP、いわゆる、同じ職種どうし近くの地域どうしで助け合う仕組みをつくるため、R6.4に勉強会を開催したところである。R6、R7で話し合いを進めていく。さらには、連携ができなかった場合に地域全体でフォローできる体制を整えていきたい。

(江口委員)

訪問看護のモデルを介護分野全体へ広めていただきたい。

7 連絡事項

8 閉会